

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所予防衛生課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結核

平成 29 年の「結核登録者情報調査年報」が、8 月 28 日に厚生労働省より発表された。

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095.html>)

全国集計と比較して、神戸市の平成 29 年の結核登録者情報調査年報の集計をみる。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)

平成 29 年の結核罹患率は全国では 13.3、神戸市では 19.7、政令指定都市の中(東京都特別区を含む)で、高い方から 3 番目である。そして、市内で最も罹患率が高いのは兵庫区の 35.5 で、次いで長田区 28.0 であった。一方、罹患率が低いのは、東灘区 14.9、西区 15.2、北区 15.3 である。人口の少ない区では変動が大きい、旧市街地である 3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。しかし、須磨区の罹患率が 23.1 と初めて中央区を上回った。(表 1、図 1)

2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)

新登録結核患者数は全国では 16,789 人で前年より、836 人(約 4.7%)減少している。神戸市では 302 人で、前年より、27 人(約 6%)増加した。増加したのは平成 16 年以来である。平成 28 年に 13%と 10%以上減少したため多少の増加は変動の範囲内で予想された。須磨区では同居家族内複数での発病が 2 組みられ、患者数・罹患率の増加に関

与したと考えられる。(表 2、図 1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰塗抹検査で陽性：喀痰をガラス板に塗って顕微鏡でみる検査で菌が見つかった患者数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では 6,359 人、罹患率 5.0 で、神戸市では 109 人、罹患率は 7.1 で、平成 26 年 8.1、27 年 7.7、28 年 7.0 と低下していたが、平成 29 年は低下しなかった。神戸市結核予防計画 2020 の目標では喀痰塗抹陽性罹患率を 7.0 未満と掲げているので、早期発見に努め目標を達成したい。(図 2)

4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4 剤の多剤併用療法が標準治療で、薬の種類が少なく、Key drug の INH,RFP の 2 剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で 9,580 人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは 7,891 人、HR 耐性は 52 人(0.5%)であった。神戸市ではそれぞれ 233 人、221 人、HR 耐性 2 人(0.9%)で、外国生まれの患者 2 人であった。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図 3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 9,913 人で 59%、神戸市では 186 人で 61.6%をしめる。80 歳以上は全国では前年より 268 人減少して

6,726 人(40.0%)、神戸市で 13 人増加して 123 人(40.7%)であった。過去の結核罹患率の高さの影響を受け、全国より高齢患者の割合が多いことを示している。合併症や年齢によると考えられる免疫力の低下により発病しているが症状のわかりにくい高齢者に注意が必要である。

6. 小児結核(0～14 歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国で59人、うち4人が重症の粟粒結核と髄膜炎であった。BCG 接種歴のある0歳児1人が粟粒結核・結核性髄膜炎を併発し、BCG 接種歴のない0歳児2人が粟粒結核、BCG 接種歴の不明な14歳1人が結核性髄膜炎であり、いずれも日本出生であった。神戸市では平成29年の小児結核は3人で、いずれも親の咳が数か月持続し、その間に感染し発病しているが、重症ではなかった。1人はBCG未接種の0歳児、2人はBCG接種歴のある3歳と4歳の同胞例であった。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から192人増加し、1,530人となった。神戸市では29人と4人増加し、20代の新登録結核患者27人中19人(70.3%)が外国生まれであった。全国的にも20代の結核患者に占める外国生まれ新登録患者の割合は62.9%となっている。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として、日本に来て発病している人が多い。神戸市では20代留学生のうち約3分の1が来日2か月以内の健診で発見されている。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態：LTBI)

全国では平成28年7,255人で前年より、222人減少、神戸市では99人で前年より、9人増加している。合併症の治療に際し、潜在性結核感染症(LTBI)治療が必要となる例が増えている。(図4)

表1 罹患率(人口10万人あたり)

平成	27年	28年	29年
神戸市	21.3	18.6	19.7
東灘	16.4	13.6	14.9
灘	26.4	22.0	21.2
中央	37.0	24.0	21.5
兵庫	29.0	27.1	35.5
北	20.5	14.2	15.3
長田	15.3	31.9	28.0
須磨	21.5	20.5	23.1
垂水	20.0	17.3	17.9
西	15.0	12.7	15.2

例年10月1日推定人口で計算

表2 新登録患者数(人)

平成	27年	28年	29年
神戸市	328	285	302
東灘	35	29	32
灘	36	30	29
中央	50	33	30
兵庫	31	29	38
北	45	31	33
長田	15	31	27
須磨	35	33	37
垂水	44	38	39
西	37	31	37

図1 各区罹患率

人口10万人に対する患者数
(2006年～2015年 新規患者)

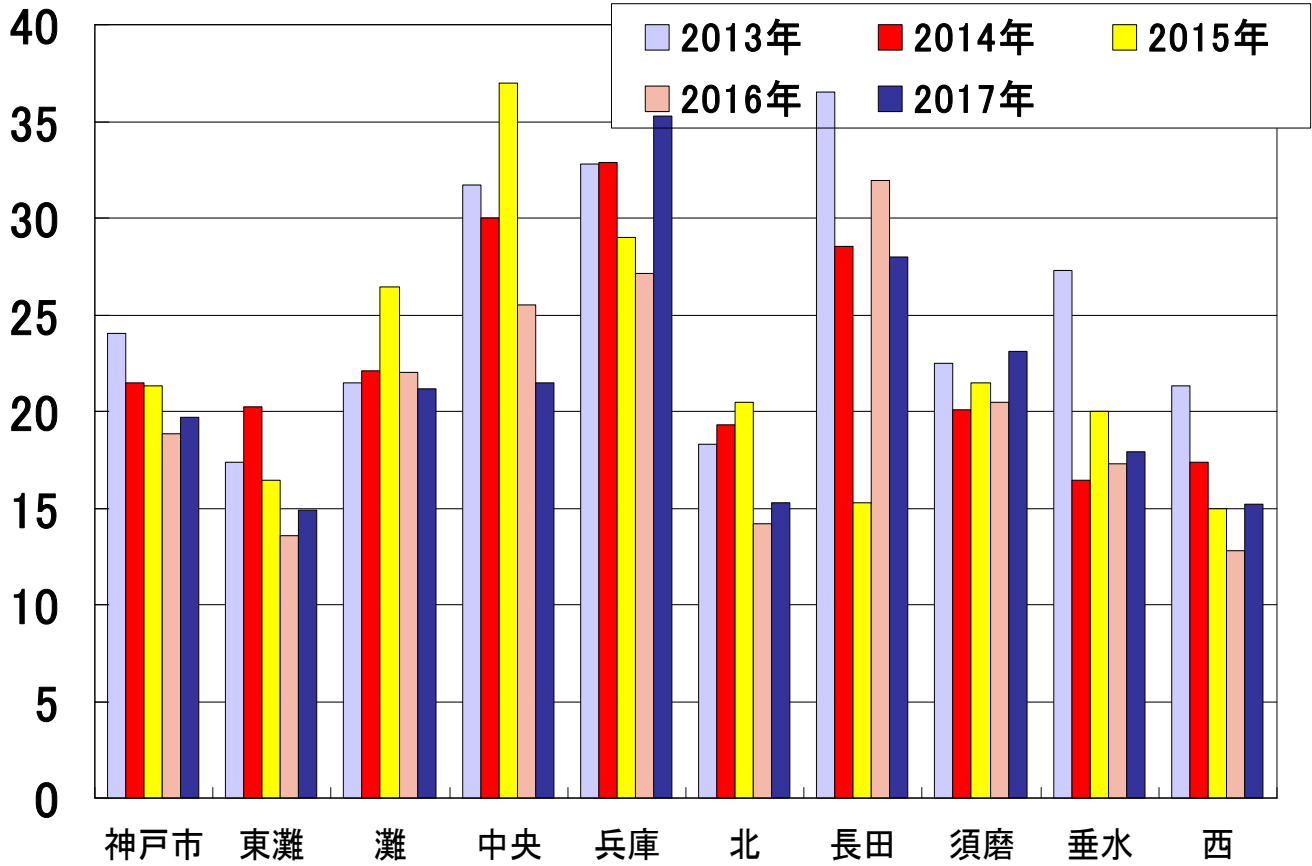


図2 新登録結核患者発生数(年次推移)

神戸市

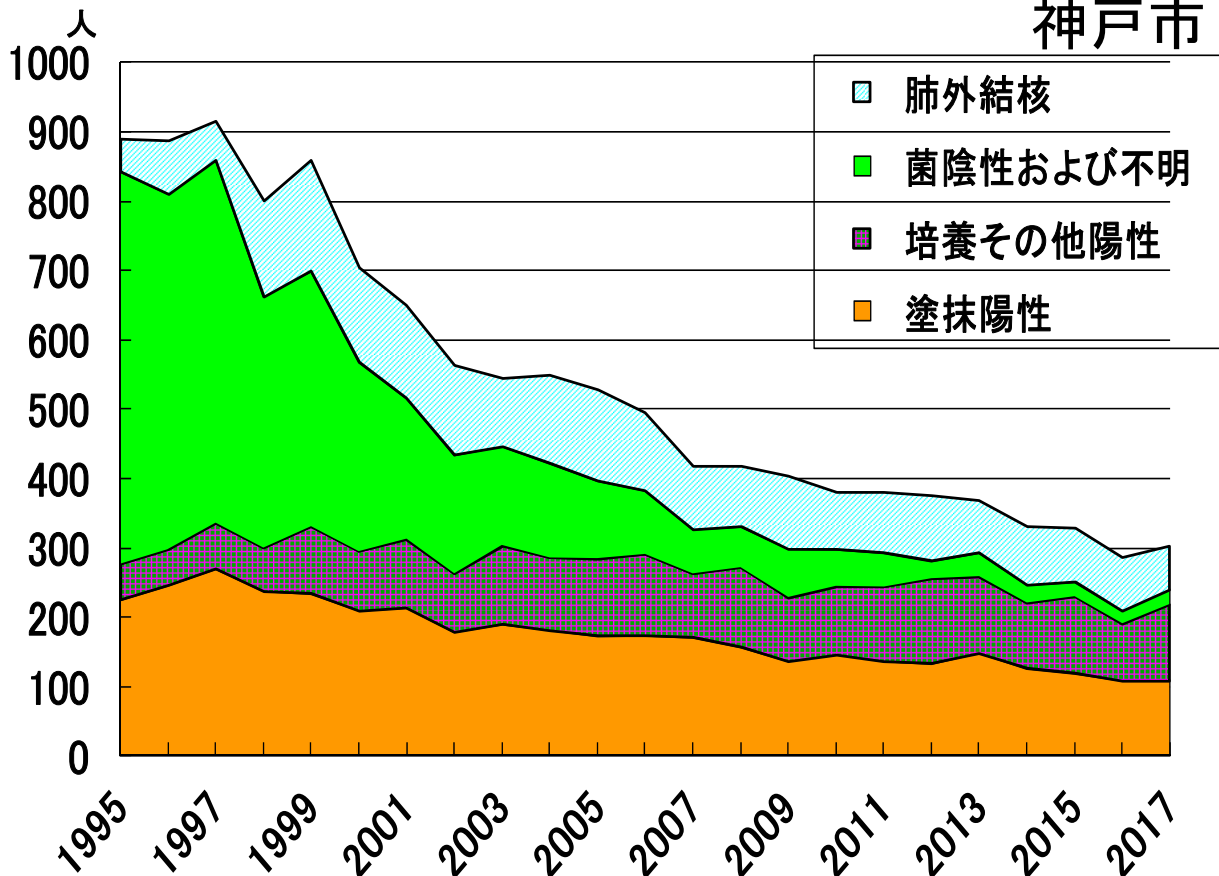


図3 新登録患者年齢分布(神戸市)

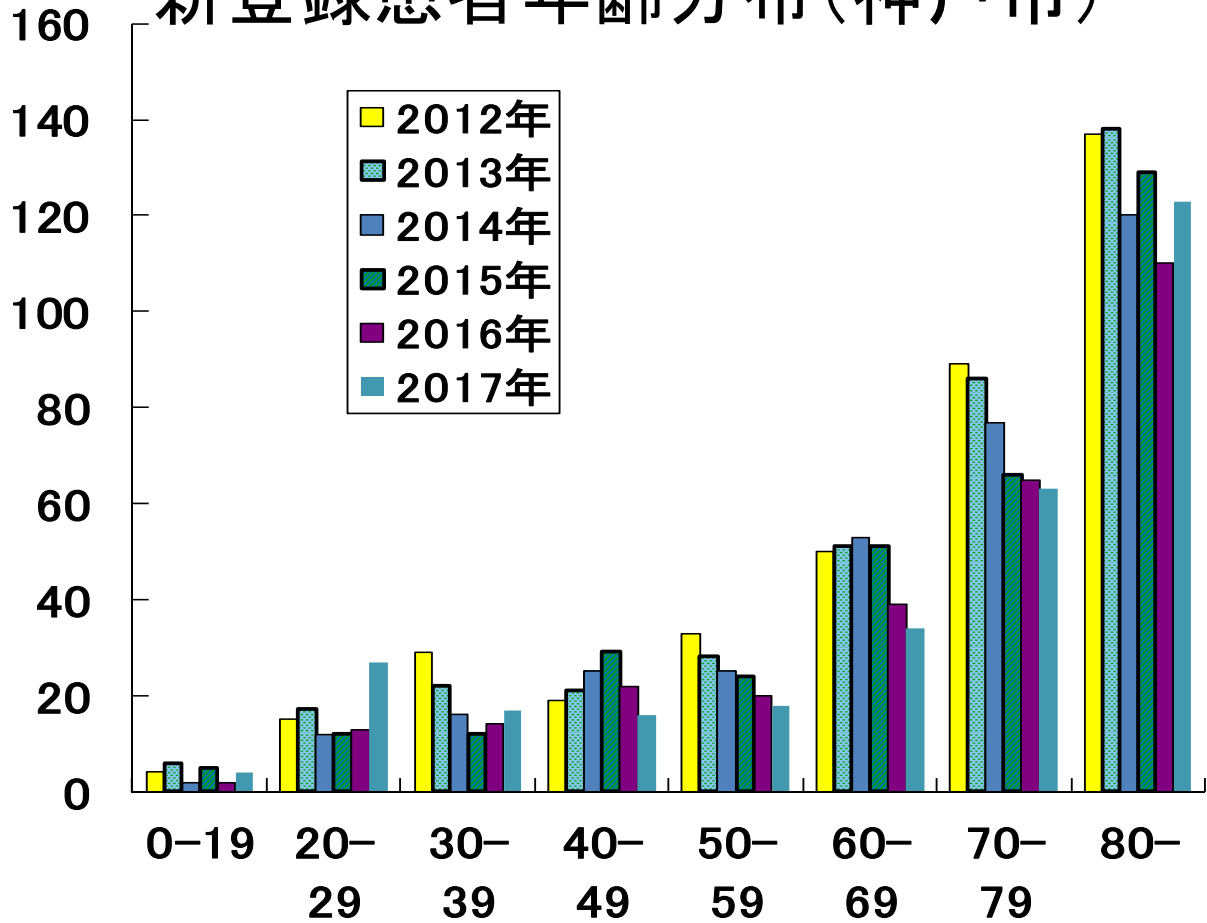


図4 潜在性結核感染症登録者数の推移 (神戸市)

